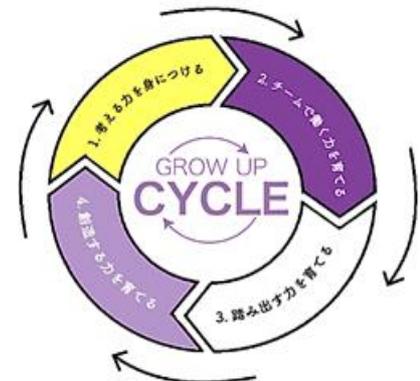


府立大正白稜高等学校の取組み

(1) 学校教育目標(めざす生徒像)

- どんな時も投げ出さない、考え抜く強さをもてる生徒
- ゴールに向かって、多くの人と協働できる生徒
- 変化を恐れず、一步前へ踏み出せる生徒
- 創り出すことを楽しめる生徒



【4つの白稜シッ】

(2) 主な取組みと組織体制の準備

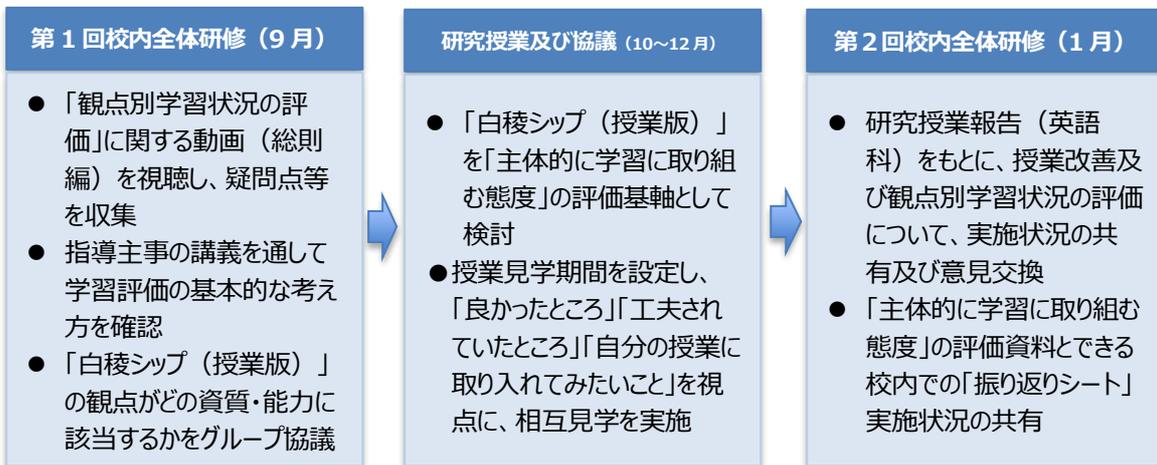
テーマ…「白稜シッの周知」「白稜シッに基づいた授業づくり」

「白稜シッと観点別学習状況の評価について」

(設定理由)

- ・ 卒業までに身につける4つの力「白稜シッ」を周知し、昨年度からの検証と再検討をおこなう。
- ・ 観点別学習状況の評価と白稜シッの共通点を探る。

主な取組み



(3) 主な実践とその工夫

① 卒業までに身につける4つの力「白稜シッ」の検証と再検討

本校では、3年間で生徒に身につけさせたい4つの力を「白稜シッ」として、学年別に具体化しています。昨年度は、教員全員で協議を重ね、白稜シッについて、「授業で身につけさせたい力」を明確にしました(右表参照。各学年の4項目について、さらに、4つの具体的場面を設定)。今年度は、この「授業で身につけさせたい力」と新学習指導要領における3つの資質・能力をどのように関連づけ、3観点の評価につなげていくかを検討し、「白稜シッ」に基づいた授業づくりを進めることをテーマとしました。第1回の全体会では、新学習指導要領における評価の3観点を再確認した上で、白稜シッで定めた各項目が、どの観点に適用することができるかを検討するため、教科の枠を越えたグループをつくり、研究協議を行いました。各グループの進行は、10年経験者研修を受講する教員に依頼しました。協議を進行することで、各先生が新学習指導要領における評価の改善を自分事としてとらえ、公開授業等においても、積極的に臨んでいただけました。

	1年	2年	3年
A 考えぬく強さ	自分で考える・自分の意見を持つ	意見の根拠を増やす	意見を再構築する
B ゴールに向かって協働する	協力する力を身につける	積極的に協働する	協働して目的を達成する
C 恐れず一步前へ踏み出す	興味を持つ	興味を持ったことを身につける	取捨選択する
D 創り出すことを楽しむ	書く・話す・模倣する力を身につける	方法を身につける	論理立てる

② 「白稜シッ」と観点別学習状況の評価を関連付ける

9月のグループ協議では、「新しく赴任した先生から、白稜シッについて、ご指摘をいただき新鮮でした。」等の意見が見られ、校内での白稜シッの一層の周知をはかることもできました。半面、白稜シッと評価の3観点を照らし合わせる中で、全ての観点到該当する項目も見られ、分類を続けていく事が難しい状況も浮かび上がりました。そこで、「知識及び技能の獲得、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとするかどうかを含めて評価する」とされる「主体的な学習に取り組む態度」に焦点を当て、関連付けをはかっていくという一つの方向性が生まれました。



10月から12月にかけて、初任者、10年経験者の公開授業を含め、授業見学の機会を設定しました。見学後のアンケートでは、「良かった点」、「工夫が見られた点」、「自分の授業に取り入れてみようと思った点」を主な聴取項目として、白稜シッに基づいた授業改善につなげることができました。

③ 好事例は「校内」にあり！ 最終の全体会は校内での事例共有を中心に

公開授業期間には、最低1回は見学するように依頼しましたが、2～3回見学した先生もいました。見学できなかった先生方に対しては、授業動画のダイジェスト版を作成し、事前に視聴し、第2回の全体研修会に参加いただくよう工夫をしたところ、参加率を92.6%まで引き上げることができました。

授業見学を通じて、既に、個別にはありますが、「主体的に学習に取り組む態度」の評価資料として活用可能な実践が多く見られました。そこで、第2回全体会を、公開授業を受けた取組みの校内事例共有を中心に、実施をすることとしました。

まず、英語科における観点別学習状況の評価の先行実施内容及び振り返りシートを用いた「主体的に学習に取り組む態度」の実践事例について、発表をいただきました。今後の課題として、『振り返りシート』の記述内容が、授業の感想に留まってしまうことが多い。そのため、主体的に学習に取り組む態度における『自らの学習を調整する側面』の評価資料として活用するには、記入に際しての問いかけ等をより具体化する必要がある。」と報告があり、現在の一番大きな課題として、「振り返りシートへ教員がコメント記入に要する時間」を取り上げ、毎時間実施しているため、単元等のみとまりごとでの実施やICTの活用等を検討していく必要がある旨の報告がありました。振り返りシートの他事例として、他教科より、紙ベースでの実施事例、Googleフォームやロイロノート for school を活用し、電子上で管理している事例も紹介されました。最後に、今後、「主体的に学習に取り組む態度」の評価資料として、振

<コミュニケーション英語 I のコメントシート> (研究授業)

天気	Today's Theme	理解度	Comments & Questions
cloudy	形式主語	A:よく理解できた B:やや理解できた C:全然のんびりだった	① 四人組にちんぷんかんぷんやっただけ、色づけて一語一語やらちよっどだけできるようになった。けどこの程度まではまだ、...と少しあきらむ色を付けてやっていたように思います。
sleepy	形式主語	A:よく理解できた B:やや理解できた C:全然のんびりだった	② 話って終わったやつとか全部がつながってからの一語一語わからなくなってきて聞くとき全部がなくなるからもういかにやらねばならないか。
sunny	関係代名詞	A:よく理解できた B:やや理解できた C:全然のんびりだった	③ この単語は空想の時動詞してたのでちよっど覚ええていました。
So-so	関係代名詞	A:よく理解できた B:やや理解できた C:全然のんびりだった	
happy	関係代名詞	A:よく理解できた B:やや理解できた C:全然のんびりだった	

どのようにすれば、できるようになるか工夫をしようとしている

自らわからなくなる理由(課題)を明確にしている → 教員からアドバイス

<数学 I の振り返りシート> (CMリーダー 研修担当者)

振り返りシートを活用する際の課題について、以下の2点を確認し、全体会のまとめとしました。

(1) 単なる感想に終わらせないためには、教員からの質問の仕方や、生徒が記入する時の説明方法が重要になる。

(2) 授業内の実施では、時間確保が難しい時もある。振り返りの回数やコメントは必要な時のみにする等の工夫が必要である。

令和4年度から始まる新しい学習評価について、今後も具体的に検討を進め、白稜シッを中心に、校内全体で共通目標をもち、学校全体の授業力の向上を図っていききたいと思います。